

# 香港で愛と音楽と喝采を求めて



動画をご覧ください

世界中を旅したある音楽家が愛を追いかけて香港へと向かい、街がもたらすあらゆるチャンスをつかみ、努力と粘り強さで香港電影金像獎（香港映画賞）を受賞するまでになりました



“

『ホンコン』の『コン』は港を表しますが、単にモノを輸出入するだけの港ではありません。

私が『香港』という港を表現するならば、『香港』は芸術作品や文化も送り出し、迎え入れる港です。香港の音楽は、シンガポールやマレーシア、中国本土等を含むアジア全体の中で大きな存在感を持っていると思います”

**Neo Music Production 共同創設者、  
作曲家、クリエイティブディレクター  
波多野裕介氏**

波多野裕介氏は、これまで、第36回香港電影金像獎で12部門にノミネートされ、最優秀オリジナル映画作曲賞を受賞した『Soul Mate』をはじめ、多くの映画音楽を手がけてきました。音楽の背後にある同氏の物語は、彼が作曲を手がけた映画作品と同じくらい人を惹きつけます。10歳までアメリカで育ち、日本に戻った後、15歳でマレーシア、その2年後にはシンガポールへ移り住みました。高校卒業後は18歳でオーストラリアに渡り、そこで後の妻となる香港出身の女性と出会いました。彼女を追って香港に来てみると、街も彼女のことも大好きになりました。

## 誰にでも平等な競争の場

「来た当初は無職でした。とにかくやってみなればと思いました。香港に来て1ヶ月で仕事が見つかり、2011年からは音楽家を本業としています」波多野氏は、自身の成功は運と香港が与えてくれたチャンスのおかげだと言います。「私は音楽家ですが、作曲家でもあります。そして日本人であり外国人でもあります。香港に来た当時、これは珍しかったんです。だから運良くたくさんのチャンスに恵まれ、多くの監督、プロデューサーや俳優と出会えました」。波多野氏は、香港の映画産業の成功に加え、政府が芸術、特に映画や音楽産業に対して積極的に助成金を支

給していることも自身の成功に大きく貢献したと言います。

波多野氏は、もし日本にいたらこれほど早くキャリアアップできなかったかもしれないと振り返ります。「香港に来ていなければ、全く別のキャリアを歩んでいたに違いありません。日本の文化は、年功序列で自分の番を待ちます。一方香港では、実力があればすぐにもチャンスをつかめます」

また、香港と世界のつながり、広州などの大湾区都市への近さもあって、チャンスは香港の先へと広がり、アーティストにとってプロジェクトやパフォーマンスの機会や場が豊富にあると波多野氏は考えます。

## まるで香港生まれのように暮らしを楽しむ

波多野氏は、映画や音楽で活躍する一方、香港の活気に満ちた生活も楽しんでいます。香港に来て11年、香港式大衆食堂、茶餐廳（チャーチャントイン）文化にもすっかり慣れ、最近は広東風チャーシューと卵のせご飯がお気に入りです。また、大美督（タイムイトク）の海の絶景や緑の山々など自然の景色も楽しんでいます。現在、香港と日本で様々なプロジェクトに取り組んでいますが、地元の名物料理

や雰囲気によりリラックスして準備に取り掛かることが出来ます。今後は、両地域の文化交流に貢献したいと考えています。

香港でキャリアをスタートさせたばかりの才能ある若い人たちへアドバイスを求めると、あらゆるチャンスをものにすることだと波多野氏は語ります。若い人にとって、特に経験を積むという意味で質より量が大切であり、一方では慣れ親しんだ心地よい環境を飛び出すことも同じく大切だと同氏は確信しています。香港でのキャリアを考えている人たちに向けて波多野氏は、「Noと言わず、まずはやってみよう！」と伝えています。

- 波多野裕介氏は、2011年に香港のホテルでピアニストとしてキャリアをスタートし、現在、作曲家、編曲家、演奏者として高い評価を得ています
- 2017年、波多野氏は映画『Better Tomorrow』『Soul Mate』『Mad World』で第36回香港電影金像獎にノミネートされ、『Soul Mate』で最優秀オリジナル映画作曲賞を受賞しました